



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次	
年頭挨拶詳細	2
日中大学フェア	3
名電高に学ぶ	4
ロボカップ大会	5
設置校生の活躍	6
設置校入学試験	7
校内企業展	8
発行所 名古屋電気学園 〒470-0392 豊田市八草町八千草1247 TEL (0565) 48-8177	

各設置校が一体となり学園の発展を 理事長、学長、平成二十二年仕事始め式で教職員に奮起促す



仕事始め式で学園、大学の教職員を前に「二年後に迫った学園創立百周年に向け、さらなる努力を」と年頭挨拶を行う後藤淳理事長

学校法人名古屋電気学園と愛知工業大学など学園各設置校の平成二十二年仕事始め式が一月六日、七日、愛工大八草キャンパスなどで行われました。学園、大学の仕事始め式では後藤淳理事長、後藤泰之学長が恒例の年頭挨拶を行い、昨年から続いている厳しい経済状況の中で二年後に迫った学園の創立百周年、昨年開学五十周年の節目を祝った愛工大の新たな取り組みについて、各設置校一体となつての協力、教職員の奮起を促しました。

学園、大学の仕事始め式は七日、八草キャンパスの第二本館棟内で行われ、後藤淳理事長が教職員を前に、「学園は二年後に創立百周年を迎えます。大学を中心に各設置校が一体となり、学園の発展を目指していきましょう」と挨拶しました。また、後藤泰之学長は、「本学を取り巻く状況は厳しい。教職員と一致団結し、各課題を乗り越えていきたいと思つていま

す」と述べました。また、愛工大情報電子専門学校でも同日、一階学生ホールで行われ、白岩義夫校長が教職員を前に、後藤淳理事長の挨拶文を代読。理事長はその中で「学園の“創造力と豊かな人間性を兼ね備えた人材育成”の教育モットーの下、社会のニーズに対応できる人材育成に努め、社会に大きく貢献できるよう全学挙げて取り組んでいきます」と強



愛工大名電高校、附属中学の合同仕事始め式で挨拶する後藤淳理事長

調。白岩校長は「学園百周年に併せ、本校も創立二十周年を迎えることから教職員は本校の継続、発展のため一層の努力をお願いしたい」と呼びかけました。

愛工大名電高・附属中合同仕事始め式は六日、南校舎内で行われ、後藤淳理事長が高、中の教職員に対し、「昨年来、景気も含め厳しい状況が続き、日本に元気がありません。ニュースなど聞くにつけスポーツの力はオリンピック等の金メダル獲得の効果を見ても分かるように、各分野にわたる日本人に希望を与え、元気を創り出す効果があるという事です。名電高を含む各設置校もスポーツでより活力を得られ

るよう中途半端でなく、全国的な成績を挙げられるように目標をはっきりと決めて、取り組んでほしい」と強調しました。式後、高校の中庭で、「今年も頑張ろう」と佐藤忍校長ら教職員、生徒も参加し、「もちつき」がありました。

（理事長、学長の「年頭挨拶」の詳細は二面に掲載）

学園、名電高・附属中の基本構想取りまとめ

名古屋電気学園は創立百周年を迎える平成二十四年実施を前提に、学園における名電高、附属中の各種取り組みのための基本構想を取りまとめました。

主な基本構想は▽中高一貫教育の維持▽教務及び事務部門の一元化（本年四月実施）▽制服の共通化（平成二十四年四月実施）▽校名の検討（平成二十四年四月実施）▽高校中実習館の建て替え等です。

理事長、学長の平成22年年頭挨拶詳細



後藤泰之学長

昨年は開学五十年という節目を迎え、様々な記念行事が執り行われました。映画「築城せよ！」の製作をはじめとして、各種シンポジウム等がありました。これも皆さんの功裏に終えることができました。これも皆さんのお力添えと感謝していま



後藤淳理事長

あけましておめでとうございます。今年のお正月は世界中が寒波に襲われ、寒い新年となりました。スタートに当たっては厳しい雰囲気のほうが（気持ちを引き締めるうえで）良かったかもしれませんが、この一年（の厳しい状況を物語るように）大変だ—という気持ち

非常に悪く、少子化もずっと言われています。また、学内を見ると学生の学力の二極化がますます進み、施設の老朽化による建て替え、耐震化

確かな目標見据え、さらなる充実を

それらを踏まえ短期、中期、長期の計画を、それも発展的な計画を立てていきたい。また、（今年四月の）名古屋市・自由ヶ丘への経営学部の移

す。今年はその節目の年を終えて、新たなスタートの年となります。本学の取り巻く状況は非常に厳しいものがあり、産業の空洞化というか、景気が

も今後、順次行わなければならぬという厳しい状況です。その中で確かな目標をしっかりと見据えて、大学を一層、充実させていかなければなりません。

社会から注目される輝きを創造しよう

ちがしなないではありません。昨年来、いろいろと社会の状況が変化し明るい話がない中であって愛知工業大学は昨年、開学五十周年という節目の年を迎えました。これも、大学が出来てから教員、職

年、大正元年に創立されてから百年を迎えます。一世紀になんなんとしている学園の歴史は、大学を中心に（設置校の）愛工大名電高校、愛工大附属中学校、愛工大情報電子専門学校等と一緒に守っていかなくてはな

員が尽力し、一緒に歴史をつくってきた成果だと思ひ、感謝しています。さらに、二年後には名古屋電気学園が一九一二

らない、と思います。大学も今年、名古屋市内に経営学部の自由ヶ丘キャンパス、また、（八草キャンパスに）新1号

館（仮称）ができることから体制を整えて、社会から「愛工大はしっかりとやっている」「この面ががんばっている」「この部分で注目されている」と、言われる何か光るものを創出し、難しく、大変な年に踏み出してほしい。

本年度も残りわずかとなりまして。皆さんと力を合わせて、締めくくると次の年度を迎える準備をしっかりとやり、新しい年のスタートを切りたいと思います。

転という時こそ、教職員と一致団結して各課題を乗り越えていきたい—と思っています。昨年は（大学開学）五十周年や新型インフルエなどが発生等もあり、あつという間の一年でした。今年はいよいよと腰を据えて、この一年を過ごせたらと思います。教職員の皆さまのご協力を宜しくお願いします。

名古屋学園人事

人事関係

【所属異動・兼務】 二月一日

（若水事務部）事務部

係長（事務局総務部総務課付係長）

竹松 宏

【新規委嘱】 二月八日

（大学）工学部機械学科嘱託技術職員

加納 譲次

【休職】 一月六日

（大学）経営学部経営学科教授

寺本 和幸

二月十五日

（大学）基礎教育センター教授

児嶋 文寿

【育児休業取得】 二月五日

（事務局）システム管理部システム管理課

金子恵理子

【産前産後休暇取得】 二月十五日

（若水事務部）事務部

事務職員

高木美也子

日中大学フェア&フォーラムに本学参加

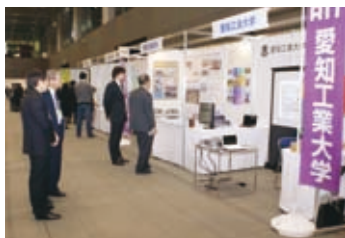


東南大から寄贈

姉妹校の中国・東南大（南京市）から愛工大開学五十周年の記念品として、総刺繍（ししゅう）張りの豪華な衝立が寄贈されました。

衝立の大きさは、縦二辺、横三辺。両大学の施設のほか両国を代表する風物等が刺繍されています。愛工大八草キャンペーンの本部棟ロビーに展示。

各分野で日中交流の輪を広げる



注目を集めた本学ブース

愛知工業大学は1月29日～30日、東京国際フォーラム（東京都千代田区）で開催された「日中大学フェア&フォーラム」に参加し、本学の姉妹校・東南大学（南京市）を含む中国の各大学と意見交換、交流を積極的に行い、成果を挙げました。

日本学術振興会等が、日中の学術交流に意欲的な大学に組織交流の場を提供、研究協力をはじめとする両国の大学の協力・連携の更なる推進を目的に開催。参加大学は、日本から東大など国公立、私立合わせ49大学、中国から清華大など37大学。本学は、米中、日中国交正常化の道筋をつけた「ピンポン外交」ほか、東南大との姉妹校交流の実績を評価され、参加要請を受けました。

フェアでは展示ブースに本学の概要、主な研究成果、中国との交流状況、産学連携の取り組みを紹介する特大ポスター等を展示。また、英語、中国語も併記した各種パンフレット、中国留学生の作成した研究紹介冊子、国際からくりワークショップで東南大など参加大学の学生が作った高さ90センチの「采振りからくり人形」も並べ、本学の取り組みを紹介しました。



本学と姉妹校の東南大ブース

同期間中、小嶋憲三副学長やフェアの窓口となった実行委員会（委員長・後藤泰之学長）の酒井忠雄副委員長（応用化学科教授）ら教職員、中国留学生がブースで、来客の応対、説明にあたりました。また、小嶋副学長は、初日のフォーラムでパネリストを務めた東南大の王保平副学長と会場内で会い、酒井副委員長らも交えて歓談し、親交を深めました。



会場で交流を深めた王東南大副学長（右から2人目）、小嶋副学長（右端）



写真展開幕式で挨拶する愛知県日中友好協会長の後藤淳理事長

愛知県日中友好協会などの主催による「周恩来と日本」写真展が2月25日～27日、名古屋市千種区の愛工大附属中学校で開かれ、写真を通して日本と係わりの深かった周恩来・中国初代首相の足跡をしのびました。

写真展は新中国建国60周年記念として開催され、周元首相の出生から日本留学、政治活動、日中交流、逝去までの貴重な写真約160点を展示。この中には、“ピンポン外交”につながった昭和46年の世界卓球選手権への中国チーム参加を実現させた当時日本卓球協会会長で学園理事長、愛工大学長の後藤鉦二先生と周元首相が握手を交わす写真も



展示された写真に見入る入場者

「周恩来と日本」写真展を附中で開催



開幕式を飾った琵琶演奏等

含まれています。中国が大会参加を決める前後の写真2枚で、参加決定後の周元首相、後藤鉦二先生のこぼれるような笑顔の写真が見る人に感銘を与えていました。初日は開場に先立ち開幕式が会場の南校舎・多目的ホールで、張立国・在名古屋中国総領事ら来賓を招いて行われ、愛知県日中友好協会会長の後藤淳理事長らが挨拶。また、中国の琵琶演奏家、テノール歌手による中国琵琶演奏と歌も披露され、写真展開幕に花を添えました。

愛工大 名高

三木・須坂市長、遠藤・信州大教授が来校



三木正夫・長野県須坂市長、愛工
大学客員教授の遠藤守信・信州大教
授が二月三日、同市で計画している
農業、商業系高校を統合して創る工
業系の総合技術高校（仮称）の参考
にしたいと独自の教育活動で実績
を挙げている愛工大名電高のほか、
愛工大を訪れ、学園や高校、大学幹
部らと歓談、施設を視察しました。

【愛工大名電
高で】三木市長、
遠藤教授は北校舎一
階応接室で、後藤淳理事
長、佐藤忍校長らから大
学と直結した専門学科や
トコトン学習等の授業内
容について説明を受けま
した。遠藤教授からも、
講師を務める同高科学技
術科生徒対象の「先端科
学技術入門」講義の話が
あり、市長も熱心に耳を
傾けていました。理事長
や教授も須坂市出身とあ
り、和やかな雰囲気の中
で話が進みました。

この後、北校舎東館二
階の情報デザイン室を見
学、修学旅行の資料を作
成中の情報デザイン部員
から話を聞き、資料を手
に取って「いい出来映え

【愛工大で】午後から
大学へ。八草キャンパス
（愛知県豊田市）の本部
棟で、遠藤教授が後藤淳
理事長、後藤泰之学長の
ほか、稲垣慎二、小嶋憲
三両副学長、架谷昌信総
合技術研究所長、落合鎮
康同教授、総長補佐の澤
木宣彦電気学科教授、教
学センター長の山田英介
応用化学科教授を交え、



総研
プロ
ジェ
クト
など
につ
いて
意見
を交

換しました。

また、三木市長は落合
教授の案内で、各研究施
設を見学。地域防災研究
センターで、正木和明セ
ンター長（都市環境学科
教授）から同センターの
概要、既に運用している
緊急地震速報システムの
説明を受けた後、総合技
術研究所を訪れ、落合教
授と澤木教授の案内で各
研究室を見学、実験装置
や機器類を見ながら研究
内容の話を聞きました。

【写真右上は、高校で
歓談する遠藤教授、三木
市長、後藤淳理事長（左
から順に）。左上は、愛
工大地域防災研究センタ
で正木センター長（手前
左）から話を聞く市長】

大沢客員教授に生涯功績賞



英科学誌ネイチ
ーの「ネイチャー
メンター賞」の発
表が昨年十二月一
日、東京の英国大
使館内であり、大
沢文夫愛工大客員
教授（87）が六十

歳以上を対象にした「生
涯功績賞」を受賞しまし
た。



大沢文夫客員教授

メンター賞は若手研究
者の育成に貢献した人を
顕彰する目的で二〇〇五
年に創設されました。過
去、欧州、豪州、アフリ
カの研究者四人に贈られ
ていますが、日本人で受
賞するのは初めて。大沢
客員教授は筋肉の収縮を
つかさどるタンパク質の
研究で知られると共に、
大勢の若手研究者を育て
ました。

発表と表彰は英国大使
館で行われ、ネイチャー
から大沢客員教授に賞状
と賞金が贈られました。
今回の受賞に対し「優れ
た若手の研究者に恵まれ
たことで、ありがたい」と、喜びを語っています。
大沢氏は一九四四年東

新学人

京大物理学部物理学科を
卒業後、名古屋大学理学
部助手となり、理学部教
授、同分子生物研究施設
長、大阪大学基礎工学部
教授（併任）を歴任し、
一九八七年から本学の基
礎教育センター教授を務
めました。現在、本学客
員教授のほか名大、阪大
両名誉教授、日本学士院
会員。



ゲーム業界につ
いて語る細田氏

愛工大情報科学
科メディア情報専
攻一、二年生を対
象にした特別講義
が一月二十七日、
大学八草キャンパ
スの11号館講義室
でゲーム会社のメ
ディアデザイナー
細田伸明氏を講師
に招いて開かれました。
細田氏は、テレビのア
ニメーション制作等にも
携わった経験を交えて、
ゲーム業界の現状や今後
の展望を講演しました。



ロボカップジュニア愛工大大会



「ロボカップジュニア2010愛工大大会」が二月六、七日の両日、愛工大・八草キャンパスのA I Tプラザで開かれました。大会には、小学四年生から高校二年生まで合わせて五十八チームが参加、熱戦を繰り広げました。



ロボットの動きに目が離せないロボカップジュニア大会

初日の競技は、「レスキューチャレンジ」。自律型ロボットが決められたコースを走行、制限時間内に障害物をクリアしてコース上の被災者に見立てた人形のシールをどきだけ見つけ、ゴールできるかを競いました。「プライマリ」（十四歳以下）部門に三十八チーム、「セカンダリ」（十五歳〜十九歳以下）部門に九チームが出場。参加者や保護者は、コースの障害物、坂等に苦闘するロボットに盛んに声援を送っていました。

この結果、「プライマリ」は岡田建人君（名古屋市蓬来小四年）が優勝し岡田君を含む上位二十チーム、「セカンダリ」では加藤公一君・佐藤太一君・山本貴文君（いずれも愛工大名電高二年）のチームが優勝し同チームを含む上位五チームがそれぞれ三月二十一日、八草キャンパス（会場・講堂兼体育館鉦徳館）で行われた「東海ブロック大会」に出場を決め、各地区代表と競い合いました。

二日目の「サッカーチャレンジ」には十一チームが参加し、勝ち点方式によるリーグ戦で対戦。優勝した国吉政宏君・岩崎玄樹君（いずれも愛工大附属中一年）と準優勝の長屋圭君・中村健人君（同三年）の二チームが東海ブロック大会に出場しました。

手作り合唱コンクール、ロボコン

名電高の普通科、専門学科生徒

名電高校1年生の「合唱コンクール」、「ロボットコンクール」が2月18日、同校で開かれ、クラスやチームに分かれて、練習の成果を披露しました。



クラスごとに日ごろの練習の成果を競い合った「合唱コンクール」

【合唱コンクール】講堂兼体育館・喬徳館で行われ、普通科の9クラスが出場しました。司会から指揮、伴奏まで全て生徒が行う手づくりコンクールで、今回で4回目。H組の「IN TERRA PAX」をトップに、各クラスが順番に前年度の卒業生から寄贈されたグランドピアノの伴奏に合わせ、練習してきた美声を館内いっばいに響かせていました。審査の合間に教職員も歌声を披露し、生徒らを楽しませました。審査の結果、「君とみた海」を歌ったG組が優勝、その他の成績は、以下の通りです。

銀賞 C組▽銅賞 I組▽指揮者賞 真野峻磨君▽伴奏者賞 溝口貴子さん



生徒の歓声や笑い声の絶えなかった「ロボットコンクール」

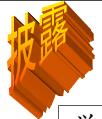
【ロボットコンクール】昨年からは専門学科の生徒を対象に始めました。4人1組の各チームが、工業技術基礎の授業で作ったセンサーロボットを使い、ゴールするまでの時間を競い合いました。制限時間は5分で、各チームとも平均15秒前後でゴールインしていました。コース途中に置かれた障害物をうまくクリアできずに立ち往生したり、スタート地点に舞い戻るロボットもあり、会場の愛名館・体育館は、生徒らの歓声が絶えませんでした。

上位成績チームは、以下の通りです。

① 朱鷺② TEAM ARIMOとうー♡③ リア充は爆発したらいい(涙)

「社会人防災マイスター養成講座」の特別研究発表会と後期講座修了式が二月二日、愛工大本山キャンパス（名古屋千種区）で開かれました。講座は、文部科学省の平成二十年戦略的大学連携支援事業として採択された「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」（本学を含む名工大、大同大、豊田高専四校連携）推進事業の一環として実施しました。特別研究発表会は、受講生十人（一人欠席）が講座で学んだことを活かし、独自に研究したテーマについて発表しました。

受講生が独自テーマで競う



学園各設置校の学生、生徒の活躍

「こん身」の名演奏で聴衆を魅了



聴衆を魅了した名電高吹奏楽部定期演奏会

愛工大名電高校吹奏楽部の「第四十五回定期演奏会」が一月十日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場・白鳥センチュリーホールで昼、夜の部の二回、行われました。昼の部の演奏に先立ち後藤淳理理事長が吹奏楽部の歴史等に触れながら活躍を紹介し、「部員の練習の成果を楽しんでください」と挨拶しました。今回の注目は、昨秋の全国大会演奏で専門誌等から高い評価を受けたR・シユトラウス作曲『「楽劇サロメ」より七つのヴェールの踊り』の演奏。

三年生、難曲に挑戦

顧問の伊藤宏樹教諭の指揮のもと、全国大会以降も解積を深め、積み重ねてきた練習の成果を披露しました。

続いて演奏されたD・シヨスタコーヴィチ作曲の「交響曲5番」は難曲ながら、この日で引退する三年生がこれまでに培った技術、音楽性を最高に発揮した「こん身」の名演奏となりました。また、ゲストとして吹奏楽部と親交のある作曲家・鈴木英史氏が自らの人気曲を指揮し、いずれも聴衆を魅了。演奏の合間には華麗な「ステージドリル



歌や踊りも加わり、舞台狭しと繰り広げられたステージドリル



大学院生が受賞



伊東重信君

愛工大大学院工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻の伊東重信君が、「2009年電気設備学会全国大会発表奨励賞」を受賞しました。

伊東君は電気学科の一柳勝宏教授、雪田和人准教授の指導を受け、年々、電気エネルギーへの依存度が高まる中、電力の大容量貯蔵が困難なため電気の安定供給のうえで極めて重要といえる需要予測の精度向上の研究に取り組んでいます。

昨年8月、富山大学で行われた設備学会全国大会で電力会社から提供を受けたデータを基にまとめた研究成果を、「気温地域分布および各近日データ比較値を用いた翌日最大電力需要予測」と題し、講演しました。審査の結果、講演内容が優秀として11月27日に受賞が決まりました。

ル」も舞台狭しと繰り広げられ、演奏会を盛り上げました。東海地区最大の三千人収容のホールは、二公演とも満員。夜の部は立ち見客もでるほどで、演奏終了後も拍手が鳴りやみませんでした。吹奏楽部は、全国大会常連校として知られ、このほか、国内外で演奏活動のほか、地域の子ども会、敬老会等にも参加と幅広く活躍しています。

学生スキー大会で準優勝



五十五回中部日本学生スキー選手権大会が一月三十、三十一日の二日間、長野県・白馬村の岩岳スキー場で行われ、愛工大競技スキー部が男子総合成績で準優勝に輝きました。大会には本学



男子・スノーパー大回転で二位に入った大家選手

が参加。初日は、男子・スノーパー大回転で大家成人選手(経営学科二年)、十ヶクラシカルで山田圭祐選手(情報科学科三年)、リレーで山田選手、久保田健司選手(情報科学科四年)、横井保志選手(経営学科一年)、伊田直樹選手(同二年)のチームが、いずれも二位と健闘。最終日の三十一日も回転で船場博貴選手(同一年)が三位に入りました。

【男子総合成績】

- ① 中京大 (81点)
- ② 愛工大 (71点)
- ③ 名大 (37点)

学園各設置校で平成二十二年入試

愛工大筆頭に志願者増で好調

愛工大

一般入試（前期日程A方式、同M方式）が一月二十八日から三日間、八草キャンパスのほか、富山など全国の各会場で行われました。

初日の二十八日、八草キャンパスでは冷え込みの厳しい中、緊張した面持ちの受験生らが次々に試験会場の10号館内に詰めかけました。各教室では、試験監督の大学教員が受験生に試験の注意事項等を説明。受験生は、試験開始とともに問題に取り組んでいました。インフルエンザ対策として各階にマスク等を置きま



緊張漂う八草キャンパス前期試験会場

したが、かぜ等によるトラブルもありませんでした。

合格発表は、いずれも二月十日にありました。後期日程M方式の一般入試は、二月二十七日に本学ほか四日市など五会場を実施され、合格者発表は、三月五日に行われました。

愛工大名電高

一月二十九日の推薦入試に続き二月八日、一般入試が行われました。大勢の受験生が押しかけた一般入試は、名古屋千種区の同校のほか河合塾千種校（同市千種区）の二会場に分けて実施されました。

本校では早朝から受験生が北、南校舎の正門前で、進学塾関係者らの激励を受け、試験に臨みました。講堂兼体育館の喬徳館も試験会場にあてられ、受験生で埋まった広い館内はピンと張りつめた空気に包まれていま

愛工大附属中

奨学生入試が一月二十三日、県内中学校のトップを切って、名古屋千種区の同校で行われました。冷え込みの一段



広い講堂兼体育館・喬徳館を埋めた受験生

した。教諭から各注意を受けた後、最初の国語の試験に取り組んでいました。また、河合塾千種校でも受験生が、各教室に分かれ解答用紙に鉛筆を走らせていました。試験会場は分散となりましたが、平穩に終わりました。合格発表は、推薦が一月三十日、一般入試が二月十一日、それぞれ郵送で各受験生に通知しました。



試験前に監督の注意を聞く受験生

と厳しい中、暖かい服装やマスク姿の受験生が、保護者らと続々と試験会場へ入っていきました。試験場となった教室等で受験生は、試験官の附属中教諭から注意事項を聞いた後、緊張した表情で最初の国語の問題に挑んでいました。県内の中学校で一番早い入試から大勢の報道陣が詰めかけ正門前の激励風景、教室内の受験生の様子取材して行きました。続く二十四日には、第一回一般入試が同校でありました。両入試を合わせた受験生の総数は、昨年を上回る過去最高の六百三十人でした。可否の通知は一月二十六日、各受験生宛てに郵送されました。また、第二回一般入試は二月十一日に行われました。

名古屋・自由ヶ丘に経営学部の新キャンパス誕生

学園は名古屋市千種区自由ヶ丘に愛工大経営学部の新キャンパスを建設、4月1日に開設します。新キャンパス名は「名古屋 自由ヶ丘キャンパス」で、経営情報システム専攻、ビジネスマネジメント専攻の2専攻が入ります。新校舎（写真左）は、地上4階、地下1階延べ床面積4,680平方メートル。講義室、研究室、ゼミ室のほか、学生サービスのための就職相談室、ラウンジ、ランチルーム等が設けられています。また、“地域に開かれたキャンパス”として市民講座の開講、マルチメディア情報センター、ランチルーム等を地域住民に開放することとしています。オープニングセレモニーは3月31日に同所で行い、式後、地域住民を対象にした見学会も実施します。



学園だより

愛名会
だより

学生は、本学の三年生、大学院一年生ら。厳しい就職状況を反映し、会場には

名古屋電気学園の後援組織「学校法人名古屋電気学園愛名会」加盟企業による「学内企業展」が二月十七、十八日の二日間、愛工大八草キャンパスの講堂兼体育館・鉀徳館で開催されました。就職を希望する学生らを対象に毎年、開催しており、二日間で加盟企業四百十八社、学生延べ三千五百六人が参加しました。

「愛名会」加盟企業展盛況
理事長も会場視察、学生を激励



順番待ちの学生もでるなど熱気に包まれた企業展

初日の開会式で後藤泰之学長が挨拶したほか、愛名会名誉会長の後藤淳理事長・総長も会場に足を運び、企業展の様子を見ながら、情報収集に懸命な学生らを激励していました。キャリアセンターによると、企業展に集まった学生に対する参加企業の評価は、「いつももまして学生の真剣さが伝わってきた」、「意欲的な学生が多かった」と好評でした。

初日から真新しいスーツ姿の学生が詰めかけました。少しでも多くの企業を訪ね、人事担当者から会社概要や採用見通し等の話を聞こうと広い館内を駆け回っていました。例年のように人気企業には、大勢の学生がブースを取り囲み、順番待ちもできるほどでした。

ものづくり
文化実習

新作からくり人形を初公開

愛工大で九代目玉屋庄兵衛氏



新作からくり人形を説明する玉屋氏

からくり人形師で愛工大客員教授の九代目玉屋庄兵衛氏が二月二十日、二十二、二十三、二十五日、愛工大八草キャンパスの「みらい工房」で開かれた「ものづくり文化実習」で新作のからくり人形「弓曳（ひ）き童子小早舟」を初公開しました。新作は、小舟の船尾に座った人形が、約一メートル離れた船首の的目掛けて矢を射る、というからくり人形です。顔も衣装等も省いた骨組みだけの構成で、からくり人形の仕組みがよく分かり、動きで微妙に表情の変わる顔が特長です。一昨年末に、そのイラストを描いた工業デザイナーから制作の話が持ち上がり、約半年かけて作

り上げました。弓を放った後、弓と弓矢が触れないように腕の部分に細工を施すなど、細部にわたる細かく仕上げられています。昨年、東京の美術館で初披露され、注目を集めました。

ものづくり文化実習には、各学科の1〜3年生二十一人が受講。玉屋氏やお弟子さんの指導で、東海地方の山車に使われている「采振り人形」作りに挑戦しました。玉屋氏はその合間に、からくり人形作りの参考にと、「弓曳き童子小早舟」を持ち込み公開し、学生にからくり人形の構造、楽しさを教えました。



ものづくり文化実習の受講生に弓曳き童子小早舟を披露する玉屋氏

編集後記

▼「十年一昔」とよく言いますが、百年となると、長すぎて「百年一昔」とは言わないようです▼その百年に名古屋電気学園はあと二年で達します。百年前はちよūd元号が明治から大正に変わった時です▼大正は長かった明治と昭和に比べ短期間の割に、ロシア革命、米騒動、関東大震災等と政治、社会や災害面で大きな出来事が相次ぎました▼また、成人男子全てに選挙権が与えられた普通選挙法施行に代表される「大正デモクラシー」も忘れてなりません▼名古屋等でラジオ放送が始まり、自動車が都市交通として本格的に登場—と、現在に繋（つな）がる多くのモノが生まれた時代です▼学園は、その中で後藤喬三郎先生が工業化社会の到来を予見、設立した「名古屋電気講習所」（直ぐに名古屋電気学校に改称）に始まります▼大正という激動期に、誰も為し得なかったことに敢然とチャレンジした後藤喬三郎先生の夢を紡（つむ）いで、百周年に繋げましょう。

(久)